

平成29年度 第2回 学校関係者評価委員会記録

平成30年2月21日（水）15：30～16：30

本校会議室 / 司会（副校長）

1 開会の言葉（総務課長）

2 校長挨拶

年度末のお忙しい中お集まり頂いて感謝する。寒い日が続いているが、本校では冬の応援歌練習が始まった。生徒の健康管理にも留意しながら実施する。

今年度在籍生徒845名から始まったが現在842名。1年生の研修旅行は全員関西方面に行った。原爆ドーム等も見学した。

予餞会はインフルエンザの流行により、27日に延期した。現在インフルエンザは沈静化している。年度末の考査にインフルエンザが影響した生徒もいたが、追考査等で対応している。時代の先駆者として広く社会に貢献する人材を育成するという教育目標に基づいてグローバルリーダーを育てるSGH事業については、昨日2年生の研究発表も行われた。今年度まで米国で行われてきたSGH海外派遣事業に関して、次年度は予算が厳しく継続が難しい。ポストSGHを考えているが、県が友好関係を持つ台湾も検討している。大切な事業なので継続していきたい。

高校大学接続改革に関しては不透明な部分もあるので動向を鑑みて対応していきたい。

各部署で次年度の準備はしているが、皆様からもご意見をいただき活かせるものは活かしていきたい。

3 報告並びに意見交換

（1）学校経営計画について（副校長）

目標達成のための方策について確認。指導上の重点事項について確認。学習指導についてはアクティブラーニングを積極的に取り入れている。進路指導は単なる大学進学指導に留まらず将来につながる高い進路目標を持たせる指導をしている。生徒指導に関して、学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめは許さない指導をする。健康安全指導に関しては、ヘルスプロモーションの出来る生徒を育てたい。定期的な生徒情報連絡会議により、生徒の心身の状態の把握を職員全体で共有している。

（2）学校評価結果について（総務課長）

学校設定目標値による総括

学習指導については、「宿題や課題の量・内容は適切である」という項目に関して肯定的に回答した生徒が大変多くなり改善が見られた。進路指導に関しても向上が見られる。生徒指導の項目「自分にはよいところがある」に関しては達成度Dとなっているが、一昨年度目標値75パーセントを達成し、80パーセントまで目標値を上げたためである。数値が大きく下がったわけではない。

（3）学習指導について（教務主任）

基礎力確認調査の平均正答率の項目だけC評価。基礎力調査に関しては、今年度一部の問題が変わっ

た数学と国語に関しては正答率が少し下がった。難易度の変化であり、学力の低下ではないと考えている。

アクティブラーニングに関するアンケートの数値は概ね高い評価を示しており、過去 3 年間で最も高い。継続したい。観点別評価が本格導入された。得点などに関しては特に保護者からの問い合わせなどはない。またこの評価にはコンピュータシステムを全県で導入しているが、本校の評価基準と食い違う部分があり不具合が起きてしまった。現在は改善されている。

評議委員 E: 東大理Ⅲで面接が入ったが、その対策について何かしているのか。また他の大学も追随するのではないかと思うがどのような指導をしているか。

進路指導課長: 多くの医学部で面接を課している。本校においては時間を見つけ 3 学年と進路課が個別に対応している。

(4) 生徒指導について (生徒指導課長)

「自分に良いところがある」というアンケート項目の数値が低く、生徒にはもう少し自信を持ってもらいたいところだった。行事後のアンケートでは 8 割ほどに上るが、普段のアンケートでは低くなる。普段から生徒の良いところを褒めるような指導もしていく必要がある。服装やマナーについては高い評価を自分たちではしているようだが、実際には外部に出たときに一高生は挨拶が出来ないことを指摘されたりもする。学校外でも自信を持って挨拶をして欲しい。時間を守ることや清掃などとあわせて挨拶を徹底したい。自分からやるべきことを見つけるような力をつけさせたい。交通ルールに関して、学校周辺ではだいぶ良くなった。事故が起こりやすいところはだいたい決まっているので対策をしたい。いじめに関しては、コミュニケーションのとり方に問題がある場合もある。SNS などのコミュニケーションについての誤解などによるいざこざなどである。家庭と協力して問題解決できる場合もあるので、みんなで見守りながら人間力をつけさせたい。

(5) 進路指導について (進路指導課長)

進路指導は生徒の未来を大切に考えることであり、それに尽きる。将来のためになる経験を積ませる指導もしている。これは面接等にも活かせるものと考えている。面談旬間も年に 6 回実施している。教員と生徒の信頼関係が進路指導だけでなく役に立つものだと考えている。各担任が一生懸命面談している姿が見られる。学年長は進路指導課に入ってもらい、縦の連携を行っている。課外は 3 年生になると選択制にしているが、これも定着し生徒たちにも意義が伝わっている。

生徒たちの個別指導などもしている。先生方のご協力に感謝したい。

全生徒が自分の進路目標を達成できることを祈るばかりである。進路先に関しては後日改めて報告したい。

(6) 健康安全指導について (厚生副課長、教育相談課長)

厚生課より

清掃については比較的行き届いていると感じられるが、自分たちで率先してやっているかという点と疑

間がある。全体で積極的に清掃に取り組めるように皆で協力して指導したい。ポスターや放送で清掃への意識を高めたい。

ヘルスプロモーションの実践をする基礎は出来ている。保健講和を10回行っている。更なる意識の啓発をしていきたい。

教育相談課より

今年度は男女一人ずつのカウンセラーに丁寧に対応してもらっている。生徒に関する情報共有は、定期考査の後に設定している。発達障害の生徒に関しては家庭と協力し、医師の指示を仰ぎながら指導している。

(7) その他 (SGH 等) について (SGH 推進課副課長)

SGH 指定から3年がたった。文科省の中間評価では全国50あまりの指定校の中で中位あたりであり、それなりに良い評価を受けている。指定が外れた後も持続可能な総合学習として今後も発展させていけるよう、今後2年で模索していく。

評議委員 E : SGH の発表にはどれくらいの人が集まったか

→SGH 推進課 : 来賓を除いて約30名。保護者は平日午後でもあり2名に留まった。

(8) 各学年より

1 学年 :

概ね順調。文理選択も納得の選択になった。生徒はかなり学校を楽しんでいるようだ。生徒のアンケートでも「大変なこともあるが楽しい。」「一高に入ってよかった。」といった意見が大変多い。宿題は最低限しか課していない。学習活動に関して楽しいかという質問をしても半数以上が楽しいと答える。お互いを尊重した考えを持った生徒が多いのも本校の特徴。謙虚な考えを持った生徒も多い。生徒は忙しい中でもいきいきと生活している。切磋琢磨して岩手や世界をリードし社会に広く貢献できる生徒を育てたい。

2 学年 :

考える力を育成するための課題研究を中心に頑張っている。考える力は伸びている。これはSGHの影響によるものではないかと考えているが、生徒に聞くと普通の授業の中で培われていると考えている生徒が多いようだ。模試ではまだまだ頑張らなければならないが、受験生になる準備が出来ている生徒とそうでない生徒がいる。その意識の差を開かせないようにしたい。インフルエンザが大流行してしまった。欠席する生徒は増える傾向にある。しかし不登校傾向から脱却した生徒もいる。スマートフォンに振り回されてしまう生徒もいるようだが、見回りなどで指導すれば効果はある。

3 学年 :

二次対策授業に向けて頑張っている。納得の受験を通した人間形成の成果が問われる時期になった。前期試験において、東大23名出願、東北大91名志願(AO合格者含む) 医学部医学科は50名ほどが志望している。当然、受験なので夢半ばで卒業してしまう生徒もいるかも知れないが、過卒生になっても指

導は継続したい。

4 その他

評議委員から

評議委員 A： 学校設定目標の項目はほぼ中学校と同じ。忙しい中このような細やかなところまでご指導いただき頭が下がる思いだ。中学校でのウィークポイントがそのまま高校でも継続しているのかもしれない。アクティブラーニングに関しては一高も取り入れていることを外部に発信してみれば他の学校や中学校も参考になる。SGH の発表などについても、もっと広くご案内いただきたい。

評議委員 B： 3年間息子がお世話になった。その感想として、先生が生徒に対して人間として接した暖かい指導をしてきている。息子も学校は3年間楽しかったと言っている。一高生が自分に自信を持っていないのは優秀な生徒たちの中にいるから仕方ない部分もあるが、外部に対して挨拶が出来ないなどというのはよろしくないだろう。実るほど頭を垂れる人間であって欲しい。一高を卒業したからこそ、どんな人にでもやさしく出来る人間に成って欲しい。進路指導に関しても、過卒生にもご指導いただきありがたい。

評議委員 C 目標数値に対して結果が高い。これ以上を目指すには先生方の負担も大きいのではないかなと思う。いじめに関して、昔からあったのだろうが、マスコミ等を見ると学校は隠したがる傾向があるのかもしれないが、一高はそうではないので良いと思う。簡単に解決できるものではないが、まだあるのであれば、学校、生徒、保護者が一体となって、長い目で、いつかゼロにできればいいと感じている。

評議委員 D 全般的に素晴らしい内容だと考える。全ての面において以前より向上していると感じる。学習面に関しては97パーセントもの生徒が「授業の内容や指示はわかりやすい」と回答しており、授業にしっかりついて行っているのに驚いた。東大進学者などにすぐに目が行きがちだが、底上げがしっかりなされていると感じる。清掃なども非常に行き届いていて驚いている。目標にあるように社会に広く貢献できる人間を育てる指導を続けて頂きたい。

評議委員 E きめ細かい指導をしていただいているのがよく分かる。自己肯定感を持つ生徒が74パーセントというのが少し気になる。高校生活を楽しんでいるだけでも良いところと言えるはずだが、自分でハードルをあげている者も多いのではないかな。そのことに関して学校に全て任せるのは間違っていると思う。第一は家庭なので指導していきたい。

評議委員 F 先生方にはいつも熱心に指導していただいて感謝している。県内では一高にいるだけで雲の上の存在のように見られがちだが、そんなことはない。他のご家庭ではお手伝いをしているのか。言われてやるのか、言わなくてもやるのか。言われなくなるとしなくなる。そういうことであれば社会に出てから心配だ。

いじめに関しては、学校だけではなく社会でもあることなので、もしそういう状態になったときの対処

法などはあるのか。指導しているのか。

→**生徒指導課長** いじめの定義として、他者からされて苦痛を感じることはいじめである。人間関係がこじれた場合教員が全てに手を貸してしまうと生徒の生きる力がつかないので、まずは生徒からの訴えをしっかりと聞くということを重視している。相談があったら周囲の教員皆で最低3ヶ月見守ろうということで統一している。いじめアンケートを年に5回実施している。

→**副校長** 対処法の一つとして、一人で抱え込む必要はないと話している。

評議委員 F 学力のことよりも、一高にいてもなお掃除や手伝いなども頑張っているという自慢をした
い。

→**生徒指導課長** 様々な生徒がいて、一生懸命な生徒もサボろうとする生徒もいる。

→**副校長** 朝、散らかっていたゴミを公共心をもって掃除した生徒がいるなど、様々だ。

→**副校長** これらの意見は反省会議に活かしたい。

5 閉会の言葉（総務課長）